



# 生きるための『いのち』



食べるってなんだろう。生きるってなんだろう。さっきまで生きていた「いのち」を頂くといいことを、もう一度考えたい。

文・佐藤 陽志



## 自分でさばいた 昼食のニジマスを 残す子はめったにいない



### 変わらないプログラム

田貫湖ふれあい自然塾に配属されてまもないある日、来館者の方から田貫湖の主【タッシー】というありがたい名前を命名されました。早いもので、あれから4年の月日がたとうとしています。自然の事や富士山の事、そして田貫湖の歴史などを自分なりに勉強し案内をしています。本場の主になれる日はくるのでしょうか…。

それはさておき、田貫湖ふれあい自然塾は、自然体験プログラムの実施と展示による自然情報の発信をおこなっている施設ですが、私は主に自然体験プログラムを担当しています。今年主に携わったプログラムは、富士山トレッキングや田貫湖の生きもの観察、そしてキャンプシリーズです。それぞれ何度も来てくれる参加者にも喜んでもらうため、下見・準備をして毎回新しいことを盛り込んでいますが、一部分だけ故意に変えていないものがあります。それが子どもを対象とした「冒険キャンプ」における「いのちを食べる」というプログラムです。

### 『いのち』を食べて

私がこの仕事に就いて一番伝えたこと、それは「いのち」です。「いのち」を食べる。では、魚を自分でさばいて食べることによって、参加者に「いのち」を意識する機会を持つてもらおうと実施しています。私たちは毎日食べ物を口にしています。それは、ついさっきまで生きていた「いのち」で、私たちはそれを頂くことよって生きています。今は様々な食品がとでも簡単に手に入り、食べることができるようになりました。子どもたちはまったく「いのち」を意識したことが無いまま食事をしていくのではないかと、人は、人として、このことを知っておく必要がある、そう考えてこのプログラムにこだわって実施しています。

### 自然界でめぐる『いのち』

皆さんは「生物多様性」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。生き物は、それぞれの種が単独で存在しているのではなく、複雑に関係しあって存在しているとい

うことです。自然塾の生きもの観察においては、ムササビやカエルなど、対象となる生きものに焦点を当てその生態を知り大切にする気持とマナーを身につけてもらうことが大きな目的です。そして、そのプログラムで伝えている生態の中には、その生きものが何を食るか、何に食べられるのかなども含まれます。野生生物には自然界においてそれぞれ役割があり、すべてのもものが「食う食われる」の関係の中にあります。例えば、ある生き物が絶滅してしまった場合、どこにも影響がないということはありません。必ず誰かとながっているはずですが、それはまた、人間においても同じです。

### 本当の「いただきます」

「いのち」を食べる。は、2泊3日のキャンプ最終日に行ないます。まずは自分たちが食べるニジマスをつかみ取りします。最初は猛スピードで泳ぐ魚にてこずりますが、ほとんどの子どもたちが捕まえることができます。その後それを子ども

たちが一人ひとりの手でさばくので、中にはどうしても自分でおこなうことができない子もいます。最後の昼食のおかずになることを説明してできるだけ自分でできるように促しますが、できないところはスタッフがほかの子が手伝います。刃物を使い「いのち」を食べ物にするので、真剣に作業をしてもまらません。子供たちの表情を見ていらい、さばいたあとはホイル焼きにすると、ホイルに乗せるあたりからニジマスは「食べ物」となっているように感じます。そして、昼食のニジマスを残す子は、めったにいません。

今年、キャンプ参加者の保護者が家庭でも魚を料理してくれたという嬉しい「報告」をもらいました。私は、子どもたちがこの体験を通して何かを感じ取ってくれていると信じています。そしてこれからも、『いのち』を考える機会を提供していきたいと思っています。

(タッシー)

